

平成29年度 第1回地方分権改革の旗手会議 概要レポート



会議終了後の集合写真



平成29年7月21日
内閣府地方分権改革推進室

会議の状況

開会挨拶（内閣府地方分権改革推進室 大村次長）

- 旗手のネットワークは着実に広まり、登録者数の増加や町村から初の会議参加等の成果に至っている。
- H29年提案で提案数が増加に転じ、旗手の皆さまのご尽力に感謝
- 有識者会議において、H29年提案における量・質の改善の評価と併せて、提案募集が新たな展開を迎えたとの指摘もいただいたところ。
- この新たな展開には、以下の2点の側面があると認識。
 - ①分権の成果が見える形となり、分権が単なる国と地方の権限争いではなく、国民のために行うものであることを示せるようになった。
 - ②提案募集方式を、住民生活の向上を目指すために、分権の観点から国・自治体が共同で行う、いわば行政のリノベーション（改善運動）として捉えられるようになった。
- 本日の会議では、この新たな展開を踏まえ、分権の成果を、行政関係者だけでなく、住民にもどう発信していくか、忌憚なくご議論いただきたい。分権室としても、旗手の皆さまが活躍しやすくなるよう環境整備に協力していきたい。



地方分権改革推進室からの説明

- 1) 平成29年提案募集の状況等について（齋藤総括参事官）
 - 平成29年提案募集について、市町村からの提案や新規提案団体が増加したこと等を説明いたしました。
 - 提案募集方式の改善状況として、過去の主な改善点やこれまでに旗手の皆様からいただいた意見に対する内閣府の見解を一問一答形式で丁寧に説明しました。
 - 地域の発意、創意工夫に基づく分権改革を国民的な運動にしておくために、旗手の皆さまに期待することとして3点述べられました。
 - ①課題の洗い出しや解決を住民と一緒にやっていく意識を持つこと
 - ②完璧な法令や制度はないので、PDCAサイクルを回して業務の改善を続けていくこと
 - ③分権改革を進める仲間を増やし、取組状況を積極的に情報発信して共有すること



- 2)平成 30 年提案募集に向けた地方支援の取組方向について(岩間参事官/高野補佐)
- ・初めて旗手会議に参加した方向けに、これまでの旗手会議でいただいた旗手の意欲的な提案により、個別意見交換や提案募集方式データベースなどの新たなアイデアが実現し、平成 29 年提案募集でも有効に機能したと説明しました。
 - ・提案を行う市町村は増加しているものの、全国的に見れば、まだ一部であることから、提案募集方式の定着に向けて、住民目線での成果の発信の重要性について説明しました。
 - ・地方支援の取組として、全国ブロック説明会、研修・セミナー、個別意見交換の実績や提案との関係、事前相談に向けた個別市町村の支援の試行について説明しました。
 - ・平成 30 年提案募集に向けた地方支援の方向性として、2 点説明しました。
 - ①各自治体の取組状況に応じた支援を効率的・効果的に組み合わせる地方支援のシステム化
 - ②提案募集方式による成果事例集の作成



取組事例の紹介

- 1) 大分県（内閣府の講師派遣を契機に、県が市町村の提案検討を積極的に後押し）
 - ・市町村への権限移譲は、年間 3~4 回開催するWG等で検討し、受入体制の整った市町村に対して実施。H29.4.1 現在の実績は 69 事務・816 項目について移譲済み。
 - ・提案募集については、内閣府の講師派遣の活用やWGの設置により、市町村の意識醸成を図った。さらに、WG分科会を設置して市町村の自主的な提案検討を県がサ

ポートするとともに、内閣府との協議も併行して実施。最終的に 2 件の提案を提出。

- 県と市町村の共同提案については、提案書作成や内閣府との窓口は大分県が行うこととして共同提案を呼び掛けた結果、九州各県、九州各県の全市町村から賛同を得ることが出来、マイナンバー関係の提案を共同提案として提出。
- 2) 松戸市（内閣府と連携して提案を検討し、初の提案提出を実現）
- H28.7 内閣府の講師派遣を活用。近隣 5 市からの職員も含め約 200 名が参加。
 - H28.9 旗手会議に参加し、講師派遣の状況を報告。提案募集方式と旗手会議の連携に新鮮さを覚える。ワークショップのグループ発表で出したアイデアが後に提案募集方式データベースや分野別ワークショップの開催として実現。
 - H28.10～12 分野別ワークショップの実現に向けて内閣府や庁内事業担当課と打ち合わせ。
 - H29.1～3 子ども・子育て関係をテーマに分野別ワークショップを2回開催。提案の卵のブラッシュアップを行った。
 - H29.6 提案(案)に市長から疑問の声が上がるも、具体的な説明を加えることで了解が得られ、松戸市として初の提案提出を行うこととなった。
- 3) 茅ヶ崎市（分野別ワークショップを活用し、医療・福祉分野で初の提案提出を実現）
- 3 年連続（H27～H29）で提案提出。市長の分権に対する強い意識が職員にも浸透し、庁内募集で例年 10 件程度のアイデアが集まる状況。
 - H29 年提案では、内閣府の「子ども・子育て支援関係」をテーマとした分野別ワークショップを活用。医療・福祉分野で初の提案を提出することができた。
 - 今後の課題としては、以下の点が挙げられる。
 - ①繁忙期や人事異動と重なる時期（年度末～4月）の、事業所管課との円滑な調整の維持。
 - ②職員の地方分権意識（問題意識をもって業務に取り組むこと。課題解決の手段として提案募集があること。等）を高めること
- 4) 山梨県町村会/忍野村（町村会がWGを設置し、町村の提案検討を積極的に後押し）
- 小さな村の声も国に届けられるよう、町村会が町村職員を交えたWGを設置しサポート。
 - WGでは、国への提案や要望を行うための、支障事例の洗い出しや根拠法令の確認、利害関係の確認等を実施。構成町村の共同作業として支障事例が検討できた結果、2 件（うち 1 件が重点事項に該当）の共同提案が実現できた。
 - 重点項目となった提案（ドローンの飛行に関する提案）のきっかけは、住民の問い合わせ。肖像権や安全管理等の問題に対して庁内の課長会議で対応方針を検討するも、解決しきれない問題が生じ、WGに支障事例として提出することとした。
 - WGで他の自治体からいただいた意見で支障事例の強化を行い、事前相談で論点を明確化していただくことで提案提出が実現。各種サポートに感謝するとともに、今回の経験で得た貴重なノウハウを庁内に還元していきたい。



班別討議

テーマ①：地方分権改革の一層の推進に向けて自らの自治体で実践すべき取組

テーマ②：改革の成果を住民が実感できるような情報発信のあり方

【班別討議（テーマ①）】

- ・28年度第1回旗手会議のワークショップ成果を踏まえ、旗手各人が効果的と考えられるアイデアを持ち寄り、意見交換を行いました。
- ・他自治体の旗手とできるだけ多くのコミュニケーションがとれるよう、メンバーを変えて2回行うこととしました。
- ・進行役のリードで、どの班も活発な意見交換となりました。

(班別討議(テーマ①)(1回目)の様様)





3班



4班



5班



全景

【班別討議（テーマ②）】

- ・ 情報発信のあり方（ツール、コンテンツなど）について、ざっくばらんな意見交換ができるようワークショップ形式で行いました。
- ・ 限られた短い時間の中でしたが、批判厳禁・自由奔放・質より量・便乗発展のルールの下で自由にアイデアを出し合い、盛り上がりを見せていました。
- ・ 討議で出されたアイデアは班内で投票を行い、周知方法に関するもの（分権マークの設定、分権の効果の金額化、分権の成果物に分権の成果である旨の表示等）や、庁内の意識啓発に関するもの（ファシリテーター研修の実施）に、票が多く集まりました。

(班別討議(テーマ②)の様様)



1班



2班



3班



4班



【発表（テーマ①）】



【発表（テーマ②）】





閉会挨拶（内閣府地方分権改革推進室 吉牟田次長）

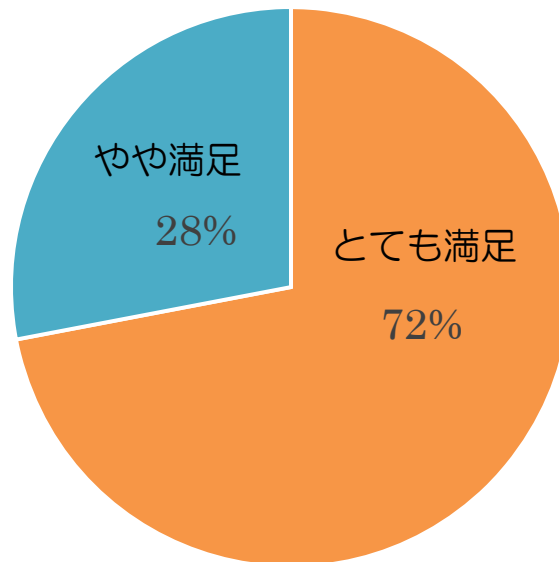
- 本日は活発なご議論お疲れ様でした。分権の推進役としての皆さまの熱意が感じられ大変心強く感じたところ。
- 自らが取り組んできた様々な改革はトップダウンの要素が強く、各自治体の皆様が熱意をもって浸透させてきた分権改革こそ地に足のついた本当の改革と感じたところ。
- 行政府だけでなく、司法院、立法府においても国民目線・住民目線がキーワードとなっている。提案募集で住民サービスの向上を図るためには、情報発信や広聴の工夫が重要。
- 公務員の多くは真面目で、有能だがシャイな点が惜まれる。本日の班別討議のアイデア（効果やコストの見える化等）のように、前向きな競争は必要なので、分権室としても、事例集の作成等、支援策を充実し、皆様の取組を積極的に思いっきり後押ししていきたい。
- 改革内容を地方が決める提案募集方式では、国と地方と一緒に協力していくことで強い力を発揮。分権室としても地方と同じ志をもって様々な取組をしたい。



【参考】

参加者のアンケート結果

問 会議全般を通して



【旗手会議全体について良かった点】

- 会議の内容も大変参考になりましたし、旗手のネットワークが広がり大変実りの多いものとなりました。ありがとうございました。
- 座学、グループワークのバランスが良かった。
- 全体的に分権室の方も含めて、フランクな(カジュアルな)感じで、とても良いです。
- 刺激になる。どんなことに悩んでいて、どんな取組みをしているか参加者の話を聴くことができたことにより、良いところは参考にしていきたい。
- 自由に発言できる/否定しない！という空気がとても好きです。突拍子もないアイデアでも受け入れてくれるうれしさがあります。
- 最後の発表資料がすぐに配布されたのには驚きました。日ごろお話をすることがない同じ立場の方とお話でき、よかったと思います。

【旗手会議全体について改善すべき点】

- もう少し論理的な裏付けが欲しかった。
- 全体的に時間が・・・。
- 開始時間がもう少し遅いとうれしい。
- グループ編成では（可能な限り）自治体のキボを近づけていただけるとありがたいです。